釈迦堂及び殉死墓

釈迦堂には、釈迦三尊像と、釈迦の像に 2 体の菩薩像が伴った仏像が祀られています。この建物がいつ建立されたのかは不明ですが、1640 年にこの場所に移されたとされています。そのころの釈迦堂は、瞑想修行を行うために使われていました。

巨大な二列の石塔は釈迦堂の左方にあります。徳川幕府（1603-1868）初期の主な臣下のうち、二十四人の墓所として建てられました。とりわけ、正面列の左側から最初の五人はよく知られています。主君である三代徳川将軍・家光が死去すると、この五人は主君の後を追って切腹したのです。このことから、この五基の墓所は“殉死墓”として知られています。のち、殉死は徳川幕府により禁止されました。